



### 好評だった 大鰐町・藤崎町老連研修会

去る12月10日(金)、藤崎町文化センターに於いて、大鰐町老連と交流研修会が開催された。大鰐町老連からは山田司会長他役員13名が参加、藤崎町老連からは老連役員・若手委員・女性部役員19名が出席し合計32名で交流研修会が開始された。

今回の交流会はコロナ禍で延期を繰り返したが、大鰐町老連からの熱心な申し入れがあり、藤崎町老連の運営について特に若手委員会と女性部の活動を主とした内容の交流会であった。交流会は加福哲三藤崎町若手委員長の司会ですすめられ、最初は町老連佐藤佳丘子女性部部长から活動状況と決算状況を報告した。続いて若手委員会の活動状況が説明され、第四代目の前若手委員長長成田始が若手委員の役割についての活動に至る苦労話を披露した。その中で委員の研修の必要なこと、委員の団結が活動の要であることが最も大切であることを述べた。消防署の見学・板柳ふるさとセンターの体験学習などを通して、全員で行動を共にしながら委員間の意思疎通を図った事が、後の老連行事の活動や若手委員の自主活動に広がり、楽しんで行動できた。この様にして友愛・奉仕活動の精神が醸成され、老連の活動に積極的に関わることが出来たと思われると話した。

現在では、女性部・若手委員会・広報委員会・専門部の活動が活発に行われるようになってきている。この活動が全老連で認められ、「二〇二二活動賞」を受賞した。



発行者  
藤崎町老人クラブ連合会  
広報委員会  
藤崎町老人福祉センター内  
電話 七五―三三三二

大鰐町老連では、特に藤崎町の活動をもとに、活動の活性化と会員増強を目指し、機関誌の発行は既に行っており、準備を整えた上で会員増強とサークル活動(本町専門部に当たる)を活性化し、会員増強に努めていきたいと話していた。

今回の交流会は始めたばかりであり、これからも交流会を行い、お互いに活動をする事を約束し会を閉じた。

質問の時間には町老連全般の話題におよび関係者から報告や経過について応答があり、2時間があつという間に過ぎてしまった。



藤崎町若手委員 大鰐町老人クラブ連合会役員 左から 大鰐山田会長 司会加福委員長 館山会長



藤崎町女性部役員 令和3年度 第1回大鰐町・藤崎町老連役員交流会出席者 (藤崎町文化センター)

### 困ったカタカナ語・略語の氾濫

清水稼志男

浅学、非才の老いばれが時代の「言葉」である流行語、若者語、カタカナ語の多きにとてもついてゆけない。パソコン、スマホも知らない自分ともなれば無理からぬ話にちがいない。数年前に知人の先生から、「これからはパソコンの時代が来るようなので覚えておいた方がよいよ!!」と言われたことがあった。

ところが不勉強でカラポネやみの私はやろうとしなかつた。……でもやっぱりそうであつたのだと思うこの頃である。新聞、テレビ、雑誌等……マスメディアはカタカナ語、略語、造語が溢れている。このカタカナ語はどんな意味、この頭文字は何の略?……日増しに年毎に増えてきている昨今である。コロナ禍の最近「クラスター」という言葉が頻繁に使われている。日本語にすれば「集団感染」ということになるらしい。終戦後の小学生の時、DDT、PTAという言葉を初めて知った。DDTは殺虫剤、PTAは父母と教師の会、父兄会であることがわかつた。

最近、有識者の間から美しい日本語を大事に使いましょうということが、しきりに言われている。外来語、略語が安易に国語化されているような気がしてならない。昭和二十四年「学習社」発行の「知識の宝庫」の中に「新語一覽」というページがあり「アライバイ」「アルバイト」「エチケット」「コンクール」等が新語として載せてあつた。

最近、毎年「自由国民社」かどこの社かど忘れしたが「新語大賞」として、その年の特に印象に残る言葉を選び発表している。私が思うには近年、年毎にカタカナ語、新語、造語、略語が多過ぎ、覚えづじまいで終わっている。言葉も確かに時代文化の象

徴かもしれないが、美しい趣のある日本語を使うことを忘れ、新語・略語で振り回さないで欲しい……愚者のたわごととして悪しからず……

### 老連支援事業について

公益財団法人 みずほ教育福祉財団(旧はあと記念財団)

旧第一勧業銀行の合併・新発足を記念し、第一勧業銀行及び第一勧業友会の基金拠出により、初等中等教育・社会福祉の発展に寄与することを目的として、昭和47年3月に設立されました。その後、みずほファイナンシャルグループの発足に伴い、平成14年8月に現在の名称に変更。

※令和3年度は22市区町村老連で事業が実施されている。藤崎では4単位クラブが選ばれている。

昭和58年度	「健康をすすめる運動」教材作成を助成
昭和59年度	市町村老連の「生きがいづくり活動」を38年間支援
令和3年度まで	「高齢者向け体力測定」セットの全県配布 「健康ウォーキング」推進用具(のぼり、手帳等)の提供
令和3年から	「地域支え合い応援事業」を始める 同世代の支え合い(友愛運動)を初めて取り組むクラブを応援する助成事業

平成30年度	ウオーキング(白神暗門コース)グラウンドゴルフ大会 防犯教室(交通事故・特殊詐欺防止)わくわく講座(音楽による癒やし効果体験)ペタンク大会(健康増進・親睦) 高齢者安全・安心キャラバンと歌声広場 体力測定とスポーツ吹き矢講習会 同世代の支え合い(友愛運動)を初めて取り組むクラブを応援する助成事業
令和3年度	令和3年度

今年度は、館川シニア倶楽部、中野目長寿会、久井名館松葉会、徳下徳寿会の4クラブにペタンク用具2組が贈呈されている。



ペタンク用具 中野目長寿会へ贈呈

日	曜	行事	時刻
1	火		
2	水		
3	木		
4	金		
5	土		
6	日		
7	月		
8	火		
9	水		
10	木		
11	金	建国記念の日	
12	土		
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木		
18	金		
19	土		
20	日		
21	月		
22	火		
23	水	天皇誕生日	
24	木		
25	金		
26	土		
27	日		
28	月	【白寿】配布日	17時以降

コロナ感染拡大のため、「まんえん防止等重点措置」が発令されました。老連行事は全て中止にしました。皆様 感染防止(3密)に努めて下さい。

### 先輩に学ぶ (20) 旧藤崎町老連文集「白寿」から 第二号 昭和58年度 (7)

#### 【短歌】 長寿者をごほぎて

柏木堰 佐藤多次郎

最高齢百四歳のその人に

知事は最初に賞を与えぬ

九十歳越えたる老いは県内に

五百七十七人と聞きて驚く

百寿越え知事賞に女十六人

男劣つて四人に過ぎず

統計によれば男は女より

五年寿命が短いと聞く

平均の寿命は男七十四

女勝りて七十九歳

村々の家々見るに大方は

主に死なれし孀の多し

鹿児島の百十八歳の泉さんは

世界一とぞいとど目出度し

長寿者の二位の二人は百九歳

北海道と栃木にし御座す

調ふれば百寿越えしは国内に

一千三百五十四人なる

沖繩に夫婦ともども百歳を

迎え喜ぶ老いらありと云う

#### 【短歌】 七十歳

表町 藤本 ちゑ

ためらいもなく先に行くといいつつ

長病の君春に旅立つ

君去りて二十余年は長けれど

教えの庭に子等はみなたつ

(左眼失明して)

目は一つ心も一つ二つ無き世とあきらめて生く

肉眼に変わる心眼を得よと云ふ和尚の声を力なくきく

いつまでも達者で居てと孫の云ふ

やさしさうれしくありがたく思ふ

亡き友の香をのせて送られし

小包ひらき思い出になく

七十年の年をかぞえて今更に

無為にすごせしおろかさと思ふ

また一つ年を重ねると云いし人

今日の夜明けにあわれ旅立つ

今年こそ今年こそと思へども

いつしかまたも年の瀬となる

#### 【俳句】 あおと

あおと

木挽町 福士 清

五月廿六日 日本海中部地震

まさまざと石灯籠崩えつゝ時燃ゆ

七月七日 孫 恵一 詩友のぶ女逝く

短夜やをさな名呼ぶごと経写し

家々の生活のほふ暮雪かな

雪しきりひとつひとつの山家の灯

冬ながく檻樓に似たりメモの詩

倅のごとく冬の日這ひ寄り来

空からめ蝦夷寄せ吹雪く大間崎

雪囲微塵に凍て透く日本海

薪割りの阿吽雪降る窓明り

ときに十年人権擁護委員

担当の木村秀雄氏逝く

ゆきみちのあおとひとりになりけり

### 藤崎町老人クラブの歌

表町 藤本 ちゑ

一、あなたと私はみちのくの

ふじの花咲く里にすむ

どうせ住むなら楽しくすごそう

ともにゆずりあい助けあつて

二、私とあなたはふじの花

笑顔忘れず健康に

どうせ咲くならきれいに咲こう

ともに手をとり仲よくくらそう

古い綴りにこの歌がありましたので  
ご紹介いたします。曲は「同期の桜」の  
曲をつけて歌ってみて下さい。



#### 古文書に学ぶ (14)

【百姓往来絵抄】江戸書林版(14)



今回も先回に続き

運送の貫目について

のまとめの記事であ

る。一人当たりの重

量負担は五貫目のめ

どが大法であると説

いている。

御公儀 この場合は代官所等の役人を言っている。

この文字は一見「筆」に見えるが別の

「百姓往来」を調べてみると、候事とあ

り、記述内容から

これが正しいと思う。

下図の文字群は全て「候

のくずし字である。冠の部分

を「候」と解釈した理由である。(くずし字用例辞典より)

読み下し文

其外ノ貫目之恒重者

壹人五貫匁之積を以テ

兼合候事 御大法也

平生 御公儀様ヲ重シ

御領 私領

#### ◆ 歯なしの話 119 ◆

恨み・怨み

佐藤 透

歴史において時々恨み怨みが強く残る出来事があるものである。

その一つが幕末の時に薩長が会津藩にした仕打ちが挙げられる。明治政府の中樞で活躍した薩長が会津藩に課したその仕打ちはあまりにも過酷であり、

下北(斗南藩)に追いやられた会津の人々は環境の過酷さ故に、多くの餓死者を出したり辛苦をなめたのである。時々テレビ等では、まだまだ許すという

雰囲気にはなれないと言う風に放映されている。学校や仕事場での苛めもそうだが、やられた被害

者側にはその思いが特に強く残るようである。我々青森県人にしても(特に津軽人にしても)下北は場所から環境等が相当に厳しいと言う事は身に染みて感じているものであり、それだけに会津藩の人々の苦勞が心底理解出来るという訳である。さて、先日また歴史的ニュースが伝わって来た。あの比叡山延暦寺が四五〇年前の焼き討ちされた事に対して、焼き討ちした織田・明智の子孫を招いて犠牲者を弔う法要を行ったというのである。ご存じのように焼かれた建造物や文化財・亡くなった死者の数も多数にのぼったそうである。しかし、延暦寺の開祖である最澄(伝教大師)が亡くなって一千二百年の節目に当たり、また、「敵も味方も分けてはならない」とする最澄の教えに基づいて実現したものだそうである。

更に、ローマ・カトリック教会ヨハネ・パウロ二世(教皇在位一九七八〜二〇〇五)が、「過去二千年間にキリスト教会が犯した罪を認め、神の赦しを請うミサを行った」というニュースはユダヤ人・異教徒・人種差別等などに対するの赦しであり、我々が学校で学んだ十字軍遠征などを含めた行為に対し、あのローマ教皇が謝罪したという衝撃的出来事であった。この様に人類は時に憎みもするが、一方で許しもするという人間ならではの手段(考え・思い)によって対立を軽減させ、そして改善させて互いのギスギスした対立を緩和し、津軽弁で言う「アズマシイ」社会へと努力する……人間ならではの知恵であろうか……と思う。

そして最澄や教皇などの考えに力を貸して会津・薩長も仲良くなるん事を願い、また、日本と近隣諸国の関係も互いに相手を思いやるならば、より関係も豊かになる事と推察する。

### 川柳

産土の鳥居に年繩年明ける

雪止んで窓開け友へメールする

シクラメン君に寄り添う冬ぐらし

ラッキーが明日も続く流れ星

石動 弘一

高木あつ子

鈴木 てつ

三浦 進

※三浦 進氏……令和三年十二月逝去